



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2025 2 月号
Vol.168

毎月1回発行(通巻168号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル5階 TEL.03-3553-2906 http://www.jmmpa.jp/

令和7年 新春特別講演会

在宅医療の現場から感性の大切さを説く 「人間力を生かした在宅医療」笹岡大史氏

一般社団法人日本医療経営実践協会は、2月1日(土)より令和7年新春特別講演会の配信をスタートした。講師を務めるのは医療法人忠恕 春日部在宅診療所ウエルネス理事長・院長の笹岡大史氏。本講演は2月28日(金)まで会員限定で配信。

さまざまな登壇者が彩る 新春特別講演会の魅力とは

今回で13回目となる新春特別講演会(2020年までは「新春講演会」)。これまでに医師や病院経営者に加え作家や文化人、宗教家等、医療界の内外から講師を招き、一般的な医療経営に関するセミナーとは一線を画した内容で、医療経営士の視野を広げ、人間力を高めるようなお話を伺ってきた。

コロナ禍を経て2021年からはオンライン開催となり、昨年は聖路加国際病院消化器・一般外科部長の海道利実氏を講師に迎え、「医療人における『仕事力と人間力』」を配信。最先端の医療の現場で実践されるマネジメントについて解

説いただき、多くの方に聴いていただいた。

今年も講師として医療法人忠恕 春日部在宅診療所ウエルネス理事長・院長の笹岡大史氏を招き、「人間力を生かした在宅医療」と題し、医療経営士へ向け、力強いメッセージを送っていただいている。

医療経営士として歩むべき道を探る道標として

笹岡氏は大学病院の急性期から介護保険施設の施設長、精神科病院における認知症治療まで、さまざまな経験を持つ。それぞれ対象とする患者や疾患が異なる現場で感じた疑問や課題を踏まえ、これからの人口減少社会において医療人として何をすべきかを考えるなかで、笹岡氏が選んだのが

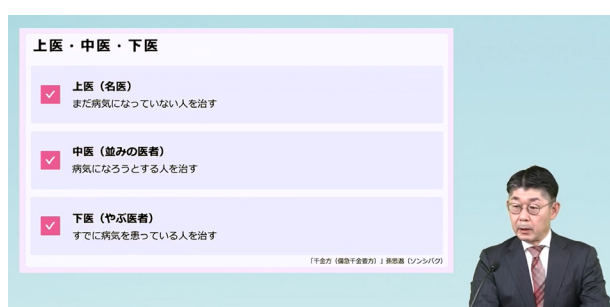
在宅医療という道だった。

今回の講演のなかでは、実際に病院から在宅に戻った事例の動画も紹介されている。病気が治せないのであれば、「家に帰りたい」という思いを叶えるのも医師の役割だと話す笹岡氏の姿からは、医療者としてどのような使命感を持つことが必要なのかを改めて考えさせられるはずだ。

1月22日には日本病院会等の5病院団体が、厚生労働大臣に対して緊急的な財政支援措置を講ずることや、診療報酬について物価・賃金の上昇に適切に対応できる仕組みの導入等についての緊急要望を行った。各病院団体による経営調査でも医療機関の経営の厳しさが明らかになっているなかで、医療経営士として何をすればよいのかわからないという方もいらっしゃるだろう。そんな方にこそ、笹岡氏の言葉が響くのではないだろうか。

笹岡氏は、「医療は救命や延命に対して力を注いで

きたが、人生という山をのぼることばかりに注力してきたのではないかと疑問を投げかける。年齢を重ね、足腰が弱って物忘れも出てくるなかで、「安全に下山するところまで責任を持って医療を施すのが本来の医師の姿なのではないか」と語る笹岡氏。医療の根幹を見つめ直し、医療経営士としてこれから自分ができるような道を進んでいくのか、改めて考える機会としていただきたい。



自身の経験から得た医療者としての本分を語る笹岡氏

一般社団法人日本医療経営実践協会 主催

令和7年
新春特別
講演会

人間力を生かした 在宅医療



講師 笹岡大史 先生 医療法人忠恕 春日部在宅診療所ウエルネス 理事長・院長

2025 | 2 | 1 (土) ~ 2 | 28 (金)

WEBオンデマンド配信

参加費 医療経営士(会員)……無料

医療経営士の皆様には視聴用アドレスを送付します

ささおか・たいし ●医療法人忠恕 春日部在宅診療所ウエルネス 理事長・院長。医学博士、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医。1989年北里大学医学部卒業。大学病院にて循環器内科部長、介護施設長を経たのち、精神科病院で内科医師として勤務。診療経験は小児科から内科まで幅広く、大学院では経営管理研究科で介護医療制度や経営管理についても学んだ。2018年、これまでの多様な経験を生かすため、在宅診療所を開業。近著に『現場で使えるケアマネの医療知識便利帖』(翔泳社/監修・執筆)。

地域の未来をデザインするために 集まれる場所をつくりたい



2016年3月の発足以来、コロナ禍での休止があったもののコンスタントに活動を継続している

静岡県東部医療経営研究会。同研究会の代表を務めるのが医療法人社団宏和会岡村記念病院企画運営部部長の田中賢司氏だ。3月15日(土)に開催される「医療介護福祉まるごとプレゼン大会」の概要や研究会の活動について伺った。

病院の役割が変わるなか外に出ていくことが不可欠

静岡県東部医療経営研究会はコロナ禍で一度休止した後、昨年からは活動を再開しています。これまでは病院のなかでやっていたのですが、病院から出て地域でやった方がいいのではないかと気が持ちが芽生えてきました。病院での開催ですと病院にとってのメリットを考える必要もありますし、いろいろな縛りもある。それよりはむしろ地域に出てやった方がいいのびのびやれるのではないかとというのがその理由の一つです。もう一つは社会の変化によって自分たちの病院だけが生き残ればよいという個別最適から地域最適を考える時代になってきています。ということがあります。だからこそ、病院の方が病院の外で交流して、刺激を受けて、地域で何が問題になっているのかを一緒に考えていける場が必要で、今回の研究会がそういう場づくりになればと思っています。登壇する方は病院・クリニック・介護施設とバラバラですが、一人ひとりがみんな主人公なんです。患者さんに関わる全員がフラットな環境を作って、医療・介護・福祉を含めて包括的

に物事を考えていくことが、これからは必要なのではないでしょうか。

**多彩な背景の登壇者から
前向きな姿勢を学びたい**

今回の登壇者には、皆さん私から声を掛けました。トップバッターが日本医療政策機構の鈴木秀さん。政府のシンクタンクに勤めているということもあって政策提言のようなところを期待していますが、彼が今取り組もうとしている「コミュニティナース」の話も聞いていただく予定です。井出亜紀子さんはもともと看護師として活躍後、現在は裾野市の居宅介護支援センターでケアマネジャーとして活動されています。裾野市で活動するケアマネジャーの会として、事業所や職種の枠を超えて気軽に集まれる「SHABERIBAR」の世話人としても活躍されていて、地域で積極的に活動している方です。川村病院の杉山訓子さんは医療経営士。同院は消化器外科の病院ですが、本人が「これを話したい」ということで患者・職員を支える地域ボランティアをテーマとして掲げてきてくれました。今回はその具体的な事例の報告をいただけるのかなと思っています。ま

た西島病院の内田孝子さんはこの地域における地域連携の重鎮で、地域連携の先駆けを知っている方です。地域の顔といった存在で歴史を知っている方です。そういう昔から地域を見てきた方が感じる今の地域連携の課題とこれからの未来予想図は、皆さんの参考になるのではないかと思います。さとうまクリニックの井原慶太郎さんはまだ若いのですが、地域を巻き込んだ動きに取り組みされていて、隣接するお寺が行っている「サトヤマ寺」という地域活動に参加してこども食堂や運動教室等の企画を行っています。地域のクリニックのあり方について一石を投じてくれると期待しています。

ここ沼津市はアニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」の舞台となっていてファンの方も多く訪れるのですが、はなまる薬局の毛塚友浩さんはその作品が好き過ぎてこちらに移住してきて薬局を開業したという異色の経歴の持ち主です。誰にも負けない沼津愛がありますし、ユニークな地域おこしの取り組みはぜひ多くの方に聞いていただきたいと思っています。

登壇いただく皆さんは非

常に前向きで、地域で活躍されている方々です。そういう熱のある人たちと普段から一緒に組んでいけば、自分の病院で何かやりたいと言っても消極的な意見が出てうまく進まないような時でもまあ踏ん張れるというか、前向きになれるのではないかと思います。

**地域の未来をともに描く
仲間が集う場所をつくる**

大切なのは、今回のような研究会を通して、お互いが顔の見える関係を作っていくということと、対等な立場で今後付き合っていく

ということですね。

今回、「みんなが地域の未来をデザインし、働き、共創していく勉強会」というコピーを付けました。地域で活躍されている方が集まって話し合うことで、みんなが地域の未来をデザインしていけるはずで、医療経営士として、地域のみならずデザインしていくための場を作る役割を担うことができれば大きな意味があると思いますし、そのことが医療経営士の新たな可能性を広げることにもなるのではないかと考えています。

医療介護福祉まるごとプレゼン大会

座長:小林恵美子氏(静岡市立病院)

第1セッション	「地域コミュニティにおける市民社会の活動」 鈴木秀氏(日本医療政策機構)
第2セッション	「地域でのケアマネジャーの役割」 井出亜紀子氏(裾野市居宅介護支援センター介護支援専門員・看護師)
第3セッション	「緩和ケア病棟/いまここ/患者・職員を支える地域ボランティア」 杉山訓子氏(川村病院)
第4セッション	「地域連携の課題と未来予想図」 内田孝子氏(西島病院)
第5セッション	「地域クリニックの事務職員心得」 井原慶太郎氏(さとうまクリニック)
第6セッション	「ラブライバーから地域おこし」 毛塚友浩氏(はなまる薬局)

日時: 3月15日(土)15:00~16:30

場所: サンウェルぬまづ大会議室(沼津市日の出町1-15)

対象: 医療介護福祉関係者どなたでも(定員100名)

会費: 200円(施設利用料)

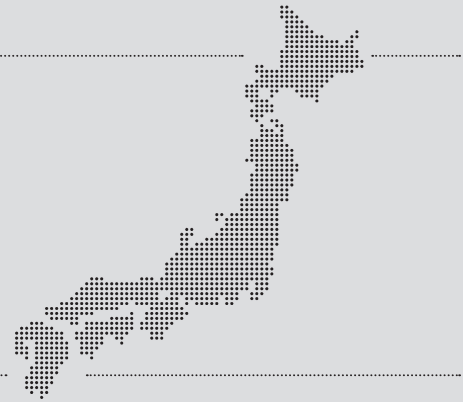
主催: 静岡県東部医療経営研究会

【お問い合わせ先】 大会事務局 田中賢司(岡村記念病院) tanaka@okamura.or.jp

詳細・お申込みは
コチラから



南九州支局研修会 寝たきりゼロを実現させるために 構造改革の必要性を提言



日本医療経営実践協会九州支部南九州支局は2月7日(金)、玉昌会グループとの共催で研修会を会場とオンラインによるハイブリッド形式で開催した。講師には日本慢性期医療協会会長の橋本康子氏を招き、「慢性期医療の課題と今後の展望～『治し支える医療』に求められる病院経営戦略について～」と題した講演を行った。橋本会長からの医療界へのメッセージをお届けする。

日本医療経営実践協会九州支部南九州支局は九州支部の理事である高田昌実氏が代表を務める玉昌会グループを中心とした、鹿児島市を拠点とした医療経営士の研究会。玉昌会グループは健康・医療・福祉・生活の総合ビジョンを掲げ、鹿児島市と始良市のまちづくりにも取り組んでおり、並行して医療経営士の育成も積極的に行っている。年1回程度自主研修会を企画し、自主研修会を通じて全国の医療経営士との交流も図ってきた。

今回の研修会では日本慢性期医療協会(日慢協)会長の橋本康子氏を講師に招へい。慢性期医療における現状の課題とこれからの展望について講演いただいた。

冒頭、橋本会長は現在の医療や介護を取り巻く情勢について解説し、「高齢化と就労人口の減少が進む中、寝たきりを防ぎ、要介護度を軽減することで、支え手不足の不安は解消する。特に、高齢者を寝たきりにさせないことが重要で、各機能での取り組みが必要だ」と指摘。急性期や慢性期、介護の各機能での役割について、日慢協が提言してきた内容を紹介した。

急性期ではADLを落とさず、慢性期では早期に上げ、介護ではさらに上げるか、維持することが求められる。そのために

急性期では、主病以外の慢性疾患を診る「総合診療医」の導入、拘縮や廃用予防のためのリハビリ人員の確保を挙げる。一方、慢性期においては、介護職の業務を明確化し、「お世話」ではなく「ADLリハ」として患者を支援する必要性を指摘。また療養期では、アウトカムが見える指標づくり、基準栄養量の改善とリハビリ栄養の導入で体重減少患者の低減を目指す。さらに介護では、退院後支援の実践の場としての訪問リハビリを集中的に実施する施策が望まれるとした。

最後に橋本会長は「寝たきりを減らすリハビリチームの創設が不可欠だ」とし、「『寝たきりゼロ』に向けた取り組みは、急性期や回復期だけが行うものではない。慢性期医療や介護でも改善を目的にし、

アウトカムを明らかにし、報酬で後押しする仕組みを構築する必要がある」と述べ、最後まで患者の回復・改善に努めることの重要性を強調。「『なんとかなる』はあり得ない。寝たきりを無くす構造改革を進めなければ、日本の医療介護は成り立たない」と力説し、参加者に「寝たきりゼロ作戦」の実践を呼び掛けた。

[左]医療経営士をはじめ多くの参加者が橋本会長の言葉に耳を傾けた
[右]寝たきりゼロに向けた取り組みの重要性を説いた橋本康子日本慢性期医療協会会長



最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く「経営の時代」の羅針盤
PHASE3
フェイス・スリー

3月号
好評発売中!!

巻頭特集

明日の病院づくりはここから 企業力をフル活用!

病院の運営に医療従事者が不可欠であることは言うまでもないが、医療従事者だけで成り立っているわけではない。さまざまな業種の関連企業の支えなくして健全な運営はあり得ないのは当然。大きな転換期を迎えている今こそ、そのような企業の声に耳を傾け、力を借りる必要があるのではないだろうか。病院運営に関連するサービスを提供する事業者の提言に耳を傾け、経営改善のヒントを探る。

詳細・ご購入は
コチラ



事務局掲示板

会報誌『理論と実践』投稿募集中
自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医

療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を呈呈いたします。お気軽にご投稿ください。

【お申し込み】E-mail : info@jmmpa.jp

医療経営士の所属をPRしよう！
所属先の掲載ご協力のお願い

当協会のホームページでは、会員の皆さまから掲載の同意をいただいて、医療経営士が所属する医療機関・企業名を公開しています。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を迅速かつ的確に解決できる能力を持った医

療経営士の所属先を公開することで、経営力を持った医療機関であること、医療機関のマネジメントを支援できる人材を有する企業であることをアピールすることができます。掲載の同意をいただける方は、下記URLからご登録ください。

【ご登録はこちらから】<http://www.jmmpa.jp/support/cat108>

協会事務局からのお知らせ

事務所移転について

このたび当協会は、2025(令和7)年2月25日(火)付けで移転いたしました。つきましては住所が下記のとおり変更となりますので、お手数ですがご登録の変更など、よろしくお願いたします。

協会設立15年目という節目に新事務所へ移転し、これまで以上に医療経営士の育成・養成および会員サービスの向上に励み、役職員一同さらに専心努力し、皆さまのご期待にお応えする決意でございます。今後とも皆さまのご支援、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

【新住所】

〒104-0042

東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル5階

【電話番号】※変更はございません

TEL:03(3553)2906 / FAX:03(3553)2907

【業務開始日】

2025(令和7)年2月25日(火)

INFORMATION

日本ヘルスケア経営学院【公開講座】
4月からの新入職員研修に最適！
丁寧な動画解説で医療分野を知ろう！

日本ヘルスケア経営学院では、多摩大学医療・介護ソリューション研究所副所長の石井富美氏が講師を務めるオンデマンド職員研修講座を配信している。

「新入職員研修」では、ヘルスケア分野で活躍できる人材となるための土台づくりを目的とし、制度の基本から医療機関の経営構造、地域医療計画を

含めた今後の医療分野の見通しについてわかりやすく解説。

「ミドルマネジャー研修」は組織・チームの中心となって現場をリードしていく方に向けた、実践的なマネジメントスキルを学べる内容となっている。

それぞれの講義には内容の理解度を測れる確認テストもある。職員研修の一助としてぜひ活用いただきたい。

【公開講座】

「新入職員研修」(各回約20分)

- ①「医療」事業に関わる基本 ②医療制度の基本
③医療業界の現状 ④医療と介護
⑤医療機関内部の経営構造 ⑥医療事業の今後

●受講料(税込):各回1,100円/全6回セット4,950円

「ミドルマネジャー研修」

▶ 講座Ⅰ ロジカルシンキングと
チームマネジメント(約120分)

- ①課題の見える化 ②チームビルディングの基本
③チーム力の向上 ④チームを動かすマネジメント

▶ 講座Ⅱ 事業計画の進め方(約90分)

- ①年度計画と予算管理の基本
②BSCの手法による次年度計画の作成
③次年度計画のCSF、KPI設定

●受講料(税込):

【講座Ⅰ】7,150円 【講座Ⅱ】5,500円

【講座Ⅰ・Ⅱ】11,000円

好評配信中 各10分のショート動画でスキマ時間を有効活用! WEB講座

日本ヘルスケア
経営学院
公開講座

医療現場のコミュニケーション&
ハラスメント対応スキルアップ研修

講座概要



●講師
石井富美氏
(多摩大学医療・
介護ソリューション
研究所副所長)

講義内容

- ①ブランディングの鏡
- ②医療現場のトラブル対応
- ③医療現場のハラスメントの仕組みと対処法
- ④コミュニケーションスタイルを知ろう
- ⑤コミュニケーションスキルアップ

- ▶ 受講料:4,400円(税込)
- ▶ 講義時間:各10分程度(全5本)
- ▶ 受講期間:20日間

お申込みはコチラ➡

